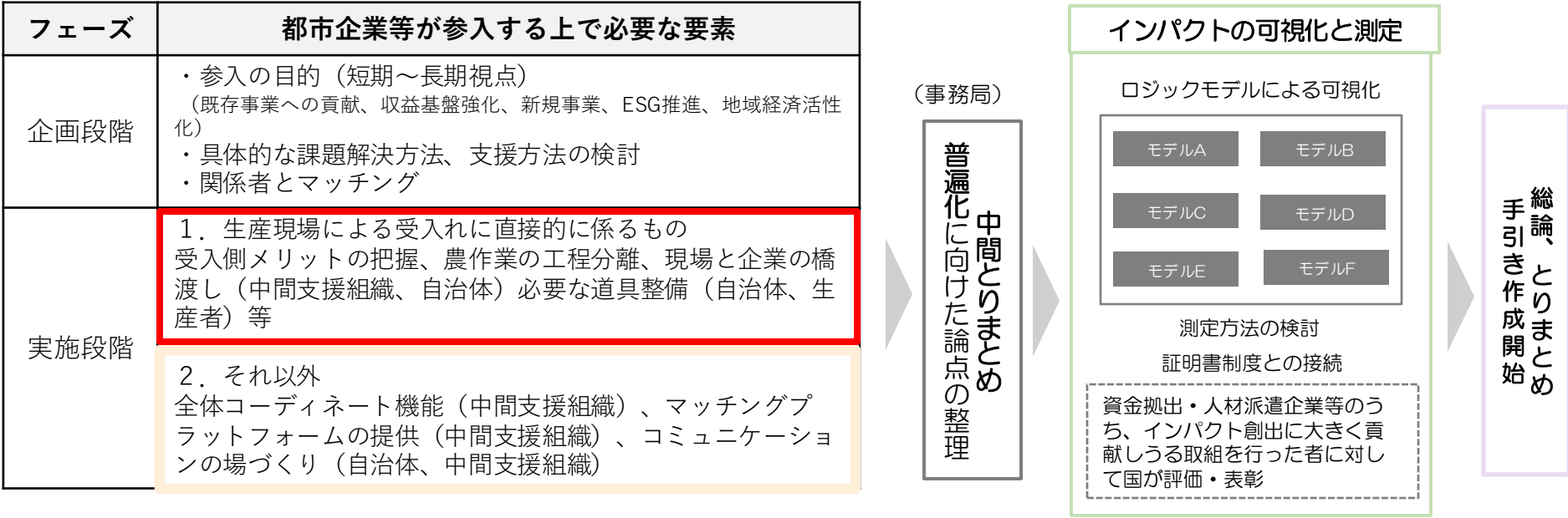


# 第3回検討会の振り返り及び対応方針について

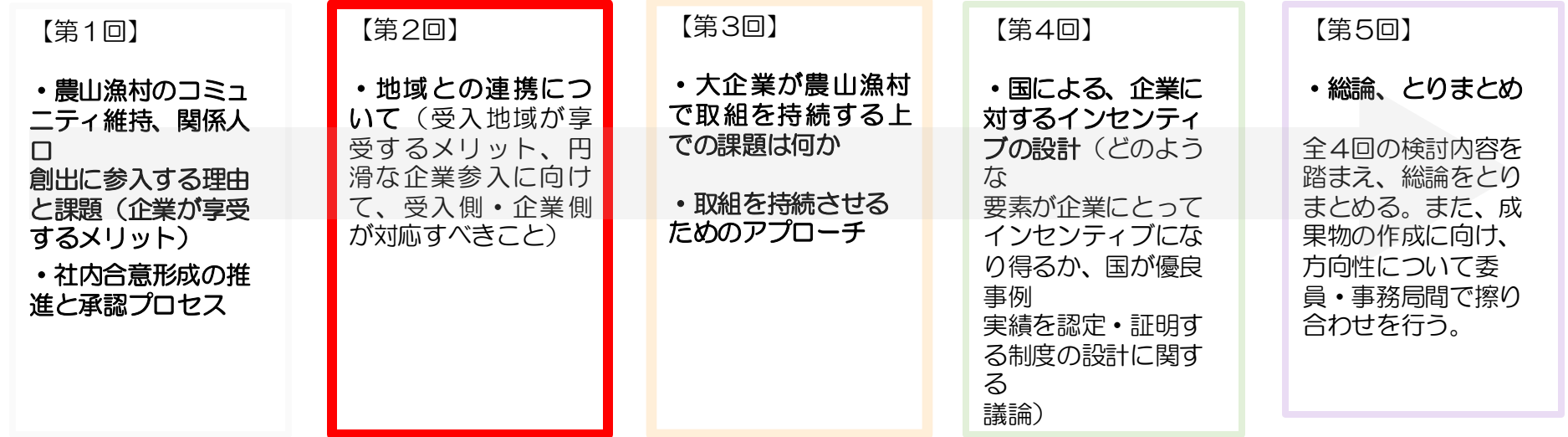


2025年10月

# 検討会における検討事項



※第4回以降については、証明書検討会の進捗状況を鑑みて、検討内容を調整することとする。



## 第2回検討会の振り返り

第2回検討会では、①大企業の農山漁村参入で地域・生産現場が享受するメリット、②円滑な参入に向け地域・企業がとるべき対応について、委員の皆様と共に議論を行った

### 開催概要

- 日時：令和7年9月3日 13:00～15:00（オンライン開催）
- テーマ：
  - ① 大企業の農村参入で地域・生産現場が享受するメリット・課題
  - ② 円滑な参入に向け地域・企業が取るべき対応

### 議論の 要旨

- ① 大企業の農村参入で地域・生産現場が享受するメリット
  - メリット：関係人口増加、若手人材確保、地域価値再発見、Uターン促進など
  - 課題：企業参画の継続性確保、受入意向のばらつき、インフラ不足、心理的障壁 など
- ② 円滑な参入に向け地域・企業がとるべき対応
  - 地域・自治体：企業の目的を丁寧に伝え、キーマン連携や情報発信を担う など
  - 中間支援組織：「翻訳役」として企業とのマッチング、効率的・持続的参入支援 など
  - 企業：社員参加を促す制度・風土、CSR・ブランド価値強化、継続性確保 など

# 振り返り：議論テーマ① 大企業の農村参入で地域・生産現場が享受するメリット・課題

大企業の農山漁村参入により、生産者には人手不足解消や将来の担い手確保、自治体には関係人口増加や地域経済波及効果、住民には地域価値の再発見や暮らし・文化の継承といったメリットがある



# 振り返り：議論テーマ① 大企業の農村参入で地域・生産現場が享受するメリット・課題

一方、地域・生産現場には人手不足や受入体制の未整備、企業には社員参加を促す制度の未整備や戦略・事業との接続の難しさ、中間支援組織への理解不足や適正対価設定の困難さといった課題がある

## 地域・生産 現場の課題



- 人材・スケジュール調整：繁忙期の人手不足、天候・季節への依存
- 受入体制：宿泊・交通インフラ不足、ITリテラシー格差
- 継続的な取組・成果可視化：取組の属人化、インパクト可視化の難しさ

## 企業 の課題



- 社内方針・制度：社員参加を促す制度の未整備、社内での目的・方針の不一致
- 継続的な価値創造：戦略・事業との接続の難しさ、評価制度・組織文化の未整備
- 中間支援組織との関わり：中間支援組織の役割の理解不足、適正な対価設定の困難さ

## 振り返り：議論テーマ② 円滑な参入に向け地域・企業がとるべき対応

大企業による円滑な参入に向けて、企業は継続的な取組を支える体制構築や価値創造・インパクトの可視化、中間支援組織は効率的なマッチング支援、受入側は人材確保や体制整備といった対応が必要

### とるべき対応

企業



- 継続的な取組を支える体制構築、制度・社内風土づくり
- 戦略・事業との接続による価値創造、インパクト可視化
- 中間支援組織との連携、適正対価の支払い

中間支援組織



- 「翻訳役」として企業・農山漁村とのマッチング
- 企業の効率的・持続的な参入を支援（インパクト可視化など）
- 中間支援組織同士の連携を強化し、各組織の強みを可視化
- 企業が農山漁村に入る際に必要な支援の整理とその機能を有する中間支援組織のリスト化

受入側



- 生産者：人材確保、受入体制の整備
- 自治体：情報発信、キーマンとの合意形成、インフラ整備、インパクト可視化
- 住民：地域資源・文化の伝達、心理的、障壁軽減

## 第2回検討会を受けての事務局としての対応方針

### 大企業の実組継続について

- 第2回では、大企業が農山漁村に参入することで得られる地域側のメリットや、参入時の各プレイヤーそれぞれが行うべき対応について議論した
- これを受けて第3回では、受け入れ後に継続性をもった取組にしていくための有効なアプローチを議論し、その内容を整理・体系化して中間取りまとめに反映させる

### 中間支援組織のリスト化について

- 第2回で論点があがった、中間支援の見える化については、本事業内にて実施の中間支援組織と大企業のマッチングを通じて、大企業が農山漁村に入る際に必要な支援の整理とその機能を有す中間支援組織のリスト化を行う
- また同事業内で、実際に企業と中間支援を引き合わせ、連携にむけサポートしながらプロセスを把握整理していく